



ヘルペス性口内炎について

医療法人社団山根歯科医院

理事長 山根 進

普通、口腔内にできる口内炎はアフタ性口内炎であります。アフタ性口内炎は円形または楕円形で、その中は灰白色のピランを呈し、正常な粘膜との境界は鮮明で幅の狭い赤線で区切られています。大きさは普通2, 3ミリです。原因ははっきりわかりませんが、体調の悪い時、ストレス、ビタミン不足、免疫低下などがいわれています。発症して2週間で自然治癒いたします。だから、なにもしなくても治るのですが、触ると痛くて、イライラする場合は薬を処方し、痛みを和らげます。それには副腎皮質ホルモン剤が有効で、当院ではテラ・コートリル軟膏やデキサルチン軟膏を処方します。

患者さんが口の中の痛みで受診された時、診察すると、口蓋などに大きさ1ミリ程度の口内炎の円形で、5, 6個がひとかたまりになっているのが、よく観察されます。これがヘルペス性口内炎です。円形の中は水泡が破れて、灰白色のピランを呈しており、触ると痛いのです。原因は通常、1型単純ヘルペスウイルス（HSV1）の感染で発症します。ヘルペス性口唇炎も同じウイルスの感染です。子供の発症が多いですが、大人も発症し、ウイルスは体内に潜伏していますので、再発の可能性もあります。これも2週間経過すれば、自然治癒いたします。痛みで食事が満足にできない場合があり、その場合は抗ウイルス剤のお薬を処方します。当院では、まず食後、アズレイウがい液で消毒し、抗ウイルス剤のビダラビン軟膏を塗布することを指導します。ヘルペス性口内炎と似た症状を示す、神経の走行に従って水泡ができる帯状疱疹（ヘルペスウイルスの一種）は激しい痛みを伴うことがあり、治っても神経痛が発症することがあります。したがって、帯状疱疹かなと思ったら、早めに病院の診察をうけたほうがいいです。

ヘルペス性口内炎	単純疱疹ウイルス	ビダラビン軟膏
----------	----------	---------